



期待していました。映画の中では期待以上のものすごい映像の連続でご覧いただいた人は多分びっくりされると思います。

**知事** 林業がテーマということについて矢口監督はいかがですか。

**矢口** 僕自身が林業について全く素人なので、主人公の勇気と同じ気持ちで取材に行き、発見や驚きをそのままシナリオにしていっただけです。でも実際に撮影に入ったときは、やっぱりすごく厳しい場所なんだなということを感じました。この映画は吹き替えやCGは一切なくて、枝払いの作業シーンでは、俳優の皆さんに実際に20メートルくらいの高さの木に登ってもらっているんです。

**市長** 実際に木に登って演じられているからこそ、臨場感のある素晴らしい映像になるわけですね。

**矢口** 木の上での作業シーンを地面から撮っただけでは、高さや怖さが伝わりにくいので、同じ高さまでカメラを上げて撮影を行いました。これがとても大変な作業で、何台かのクレーンを使い機材とスタッフを持ち上げるなど、地上での撮影に比べ5倍から10倍は手間がかかりましたね。

**三浦** 私も撮影の様子を見ましたが、山なので大きなクレーンを置く場所もそれほどないですよ。そんな中、スタッフの皆さんがクレーンに登って撮影をされていましたので、本当にびっくりしました。

**市長** この映画は、都会暮らしの主人公（勇気）が、山に入ってだんだん山の魅力に魅せられて、山を好きになっていき、そしてそこにいる人も好きになっていくという過程がとっても爽やかに描かれている映画だと思います。

**三浦** 実際にこういう子いそうだなっていう感じで、チャラさと純粋な部分とのバランスがとてもいい感じに表現されていますね。

**市長** 原作でもそういう感じですよ。

**三浦** いやあ、原作よりも映画のほうが、より現代っ子感がリアルだと思います。すごく繊細で、情熱的な部分も持っているって感じがとても良かったです。

**矢口** 映画では主人公の勇気が体験している視点で見せていこうとシナリオを書くときから決めていました。映画をご覧になる皆さんは、彼と一緒にローカル線に乗り、村に到着し、携帯電話もつながらない村にいられるのかなって不安を感じ帰りたくなったり、心細くなったりしつつ、村の人々とのつながりのなかで、だんだん村のことを好きになっていくという疑似体験をするような感じですね。

**三浦** 映画を見て、劇中に出てくる子どもたちが生き生きと遊んだり、会話したりしてところが、神去村っぽくて、美杉で撮影した風景とすごくマッチしているなと思いました。

**市長** 子どもたちにも見ていただきたいですね。

**三浦** そうですね。ぜひご家族で見てほしいですね。



昨年夏、美杉地内で行われた撮影風景 (写真提供:映画製作委員会)